

# やってみよう：使い方

## はじめに

「やってみよう」はそれまでに習った文型や語彙を使って、新たな場面での運用能力を高めるためのタスクを示してあります。ルーブリックは別にリンクをはってありますので、それをご参照ください。

## 第1章 ついに成田到着

---

### P15 やってみよう 1

#### Task 1 (どこでもウェブを使う)

まず、ペアか少人数(3~4人)のグループに分かれ、それぞれのグループに電車について調べるか、リムジンバスについて調べるかの課題を与えます。次に、料金、時間、乗り換えなど必要だと思われる事項のほかに、よい点とあまりよくない点があれば、それらをメモに加えるように指示しましょう。

例) 電車は、「乗り換える時に荷物が重いので困る」「バスは渋滞があるかもしれない」など。

その後、電車について調べた人は、バスについて調べた人とペアになり、日本語でそれぞれの情報を交換しましょう。

例) 成田空港から東京駅までは、電車で何時間かかりますか。

電車/バスはいくらですか。

#### Rubrics

#### Task 2

まず、考える時間を与え、メモをとるように指示します。このタスクでは、「どちらを選ぶか」を聞いているので、自分の選択したほうを必ず述べられるようにします。そして、その理由をはっきりと言えるように練習しましょう。このように、Task completionを意識させることが大切です。

例) 電車がいいと思います。なぜなら、……からです。

#### Rubrics

### P16 やってみよう2

「宅配便の申込用紙」という言葉をインターネットで検索をすると、ここにある申込用紙以外にも、実際に使われているいろいろな申込用紙を見つけることができます。いくつかプリントアウトして必要事項を書き込む練習をしましょう。

### P18 やってみよう3

ペアになり、1人にA、もう1人にBのタスクを与えます。ここでは、与えられた状況や立場を理解した上で、会話を広げるために、まずはペア同士でしっかり話し合う(ここは学習者の第1言語でもよいでしょう)必要があります。まず、練習する時間(10分程度)を与えて、メモなどを使わないで演じる練習をしてから、実際にほかの生徒の前で演じさせましょう。

注意) 1度スキットが始まったら、途中で止めないようにしましょう。途中で止めて、発音や文法の間違いを直していると、細かいことばかり気にして、前に進めない生徒を育ててしまいます! 直すのはあくまで、練習の時にしてください。

#### Rubrics

### P19 やってみよう4

#### Task 1

留守番電話にメッセージを残すというのは、人によっては母語でも、簡単ではありません。①~③のタスクは、それぞれ練習をしてから、実際に録音してみるとよいでしょう。④は上の内容に似たタスクを生徒たちに書いてもらい、それを別の生徒に与え、練習させましょう。

#### Rubrics

#### Task 2

下書きメモを見ながら自己紹介をする練習をしましょう。

##### 1 下書きメモを作成する。

スピーチの構成を考え、効果的なスピーチのはじめ方やスピーチの終わり方などを確認しましょう。

(はじめ方の例: はじめまして/みなさん、こんにちは……など)

また、文と文をつなぐ言葉(それから、でも、だから……など)を使うことでスピーチがスムーズになるということも確認しましょう。

2 下書きメモを見ながら、練習する。

話す速度、音量、間の取り方についても、気をつけて繰り返し練習させましょう。

## Rubrics

## 第2章 日本の家

### P34 やってみよう1

A、B、C、Dの4つの絵を見ると、日本の文化について考えさせる教材だということがわかります。ただし、それぞれの絵に対して、正しい答えは1つだけではないので、生徒が想像力をはたらかせて、自由に話し合いができる授業作りを目指してください。

AとBは、ほかの絵に比べて、ポイントがはっきりしています。例えば、

A：日本の家の玄関では靴を脱ぐ。脱いだら、必ず、靴のつま先を入口に向けてそろえる。

B：湯船に入る前には、まず体を洗い、それから湯船には静かに入る。

ただし、これだけで話し合いを終えるのではなく、自分の家に入る時は「靴をどうするか」とか、「シャワーやお風呂に入る時のきまり」など、生徒の生活の身近な習慣と比べ、意見交換をすることが必要です。

CとDの絵に関しては、あまりはっきりと「日本の文化」は見えません。

C：絵を見て、これからのび太くんは何をしようか、なぜそう思うかという「推測」を促すような質問をするとおもしろいでしょう。「のび太くんは、ベッドの上で飛び跳ねて遊ぶかもしれません。なぜなら、いつも布団に寝ているので、ベッドがめずらしいからです」などの答えが出てきたら、すばらしいですね。

Dの絵のように騒ぐというのは「日本の家」だけのことではないと思いますが、ここでは布団でたたき合いをしている点に注目し、枕でたたき合う場合と比較してみましょう。日本の「そばがら」でできた枕でたたき合うのと、羽毛の枕でたたき合うのでは、どう違うと思うかなど、話を進めた後で、日本の伝統的な枕について調べるのも、おもしろいかもしれません。

### P35 やってみよう2

このタスクは、グループ作業のプロジェクトと位置づけることも可能です。また、1人ずつさせる場合はコンピューターのソフトウェアで作らせてもいいでしょう。その際、どのようなポスターが人の目をひくか、またどのようなメッセージが人に伝わりやすいかなど、効果的なポスターの条件について、事前に話し合っておく必要があります。ポスターに載せる文章は、ここで復習している「～なくてはいけません／～なければなりません」を使いましょう。クラスで、できあがったポスターを見せながら、伝えたい内容を日本語で発表させます。その後、実際に廊下などにそのポスターを貼ることで、学校コミュニティーにも貢献できるでしょう。

### P36 やってみよう3

まず、正しい答えは1つではないことを、確認してから始めます。ただ、実際にホームステイの経験がない生徒には、想像力が必要な問題です。その場合、訪問先の知人宅で、このような状況を想像させると、わかりやすいでしょう。

### P38 やってみよう4

#### Task 1

ものごとの手順を説明する練習です。まず、このページのコーヒーマーカーの写真を見て、または実物を見せて、使用手順を各自ノートに書かせます。何人かが書いたものを口頭で発表し、その手順に従って実際にコーヒをいれることができるか、ほかの生徒に実演させてみます。また、ウォッシュレットについては、手順の説明のタスクの後で、この便利なトイレからどんな日本の文化が見えるか話し合うのも、おもしろい試みです。

これらのアクティビティーの後で生徒に、使い方の説明ができるものを1つ選ばせ、「～まず、～で、そして次に～」などのつなぎの言葉を使って、その使い方の手順を説明させることもできます（例：コンピューター、コピー機、携帯電話、音楽機器など）。

#### Task 2

これらのドラえもんのみみつ道具は、マンガの中に実際に出てくるものです。もちろん、使い方は決まっているのですが、それにこだわらず、生徒たちの想像力をはたらかせて、「これは～をするためのものです。使い方を説明します。まず～……」のように、手順を含む説明をさせましょう。Aの「どこでもドア」は、この本の第1章のマンガで使われていますから、まず、そのことについて話し合ってから、それぞれの絵について考えてみることもできます。また、時間があれば、追加として、生

徒が自分で新しい「便利な道具」を作り出し、それについて発表するのもいいでしょう。

### 第3章 地震?台風?大変だ~!

---

#### P51 やってみよう1

まず、このタスクの答えをすぐノートに書かせないで「次の休みはいつですか。祭日ですか。それとも、もっと長い休暇ですか」など、生徒に聞いたり、教師が自分の休みの予定などを話したりして、生徒の興味をひきます。それから、自分の予定や希望などを書くようにします。

その後で、ペアになって、友だちの予定を聞きましょう。日本語の会話がはずんでいるペアに、代表として発表してもらってもよいでしょう。

このタスクでは、必要に応じて、教師と生徒、または生徒と生徒というように組み合わせを替え、繰り返し練習をすることができます。

#### P52 やってみよう2

これは、生徒の「地理」に関する知識と日本語能力を必要とする問題です。直接このタスクに入るのが難しい場合は、前もって「最近、どこでどんな異常気象が起きたか、調べてくる」という宿題を出し、生徒がすでにもっている知識 (Background Knowledge) に気づかせておく必要があります。

また、「~かもしれません/~でしょう」という文型のほかに、「なぜなら、~からです」という文型についても練習ができます。

#### P54 やってみよう3

同じアドバイスをするでも、「~ほうがいいです」と「~べきです」では、印象やニュアンスが違います。それぞれ A ~ E の場合、どちらの言い方がより適切かを考え、話をする相手などの状況によって、より正しい言い方が使えるようにしましょう。状況の判断ができていく生徒がクラスに多くいる場合、A から E を、まず、クラス全体で、A ~ E の状況の確認をして、どんなアドバイスがよいかなどを話し合い、その後ペアワークに移るようにします。

#### P55 やってみよう4

まず、自分の住んでいる場所や地域の気候と、それにとまなう服装について話し合います。そうすれば、四季のはっきりした日本から来る友だちにアドバイスがしやすくなります。

例えば、「今、住んでいるところの気候はどうですか。日本のようなはっきりとした四季がありますか。それとも、1年中、常夏の気候でしょうか」や「1年のうち、いつがどのような気温で、どのような服装が適切ですか」などと聞いてみましょう。また、日本の四季の平均気温や、典型的な天気、そしてそれに合わせた人々の服装を考えながら、このタスクをさせると、ナショナルスタンダーズの5Cのうちの「比較」もこのアクティビティーに入れることができます。

### 第4章 学園祭・クラブ活動

---

#### P69 やってみよう1

このタスクを始める時、特技のある人を探すために、クラス全員でカクテルパーティー形式で自由に質問をしあいます。その準備として、まず、どのような質問をすればよいかをブレインストーミングする必要があります。ここでは、「可能」の文型を練習するため、例えば、「何が得意ですか?」「どんなことができますか」などが出てくるようにしましょう。

また、クラスでインタビューする時間がない場合や宿題にする場合は、クラス以外の人に質問してもかまわないという条件に変え、答えは日本語で書いてクラスで発表するようにします。

#### P70 やってみよう2

まず、例文に注目してください。茶道部に誘う場合、この例文のほかにも例えば、「1週間に1度、和菓子を楽しむ気はないですか」「お茶にしませんか」などの誘い方もできることを示します。そうすることで、正しい答えは決して1つではないということを、はじめに生徒に理解させましょう。それからタスクに入ります。また、時間がある場合は、生徒たちが実際に参加しているクラブ活動の場合を考えさせ、その誘い文句を使ったポスターやチラシを作らせてみるのもおもしろいでしょう。

#### P71 やってみよう3& P72 やってみよう4

どの章でもいえることですが、「やってみよう」は、文型を理解するだけで終わらせず、実際の毎日の生活の中でその文型を使って、自分の意見を述べる練習です。機械的に文章を組み立てることができても、実際に自分のものとして使えなければ、運用能力 (Proficiency) があるとは言えません。ここでは、生徒が自分で考え、自分で答えを出せるように指導します。教師の役目

は、生徒に答えを与えるのではなく、考えるための材料を与えることです。そうすれば、「日本語の能力」の上達だけではなく、Critical thinking skills(認知能力)の向上にも効果があります。ふだんから、生徒に考えさせる授業をする必要があります。

## 第5章 年末年始

---

### P86 やってみよう1

例文の最後の部分(下線部分)は、「～し、～し、～し／～だと思えます」というようにほかの文型で終わることもできます。クラスの日本語のレベルによって、変えてみてください。このタスクも、正しい答えは1つではありません。少人数のグループ、またはペアワークで行うことで、語彙の少ない生徒でも、安心してタスクをこなすことができます。

### P87 やってみよう2

このタスクは、答えの前半はコントロールされていますが、後半は生徒が自由に文章を完成させることができます。前半を教師がいくつか作って、後半を生徒に作らせた後、今度は生徒に前半を作らせ、ほかの生徒が後半を作って意味の通じる文章を完成させることもできます。

### P88 やってみよう3

このタスクをする前や後に、別のトピックを使って、口頭で練習してみるのもよいでしょう。例えば、クラスでパーティーをする準備とか、隠し芸大会をする準備など、「～ておきます」という文型で準備できることはたくさんあります。このタスクでは、ホストファミリーのお母さんには、内緒で準備をするので、メモを書いた後で、お母さん以外の家族に「こっそり渡す」必要があります。

### P89 やってみよう4

まず、教師が口頭で「自分の抱負」を生徒に伝え、その後で、生徒たちに考えさせ、口頭で発表させます。その後で、このタスクをしましょう。また、例文を「今年はたくさん勉強するようにします。なぜなら、去年は遊びすぎたからです」というように、内容を前後逆にしても意味が通じることを示してもいいでしょう。

## 第6章 病気と健康

---

### P103 やってみよう1

これは、日本語の能力以外に考える力も求められるタスクです。このような場合は、ペアで考えさせたり、はじめの問題Aをポップコーンスタイルで、クラス全員で自由に意見を出させて考えさせたりすれば、生徒にレベルの差があっても進めることができます。

また、このタスクを短いスキットの題材として与え、自由に会話を作って発表させるということもできます。その際、「自由に考えて、話す」ということに目標を設定するなら、細かい文法上の間違いなどは、全体の理解の妨げにならない限り、指摘しないという方法もあります。

### P105 やってみよう2

このタスクをする前に、クラス全員でブレインストーミングをして、アイデアを出し合うことをおすすめします。まず、教師がふだん心がけていることや知っていることなどを話し、その後で、生徒の考えを聞きましょう。ここで考えられるヒントには、「たくさん寝る」「ビタミンをとる」「野菜をたくさん食べる」などがあります。

### P106 やってみよう3

まず、身近なトピックを使って、生徒に興味を持たせ、意欲を刺激しましょう。学校のスポーツイベントの結果や、おもしろい友だちや授業、先生など。また、おいしいレストランやカフェについてや、コミュニティーの祭りなど、あらかじめコミュニティーで発行している新聞などで教師がチェックしておくことで話題が広がりやすいでしょう。

### P108 やってみよう4

自分の特技を生かして、子どもたちに何をさせることができるかを考えてみるように指示しましょう。自分の特技が思いつかない場合は、友だちに見つけてもらうこともできます。お互いのよいところを指摘しあうことで、クラスの雰囲気まとまる、ということもあります。

そのほか、同じような内容で、家庭教師や子守りをするという宣伝用のポスターを作らせることもできます。できあがったら、ほかの日本語のクラスの生徒に人気投票をしてもらってもいいでしょう。

## 第7章 生活

---

### P123 やってみよう1

まず、A～Eの内容を、日本語ではどのように質問すればよいかを、考えさせます。それらの質問文を口頭で練習してから、実際にクラスメイトにインタビューをします。また、日本語がわからない人にインタビューをする場合は、その答えを日本語で発表するというのも可能です。また、「家族の誰かにインタビューして、その答えをワークブックに日本語で書く」という宿題にすることもできます。

### P124 やってみよう2

このタスクでは、クラス全員での「なりきりスキット」というアクティビティを紹介します。まず、2～3人の小さいグループに分かれ、場所とり係、食べ物係など、それぞれのグループの係を決めます。それから、グループごとに、決められた係になりきって、何をすべきかを話し合います。その後、クラス全員でスキットをします。

ここで大切なことは、自分の係のすることをただ述べるだけでなく、ほかの係の言っていることを聞きながら、自分たちの係のすべきことを述べて、全員参加でスキットを作りあげていく、ということです。いつも2人、3人のスキットを経験している生徒たち（クラス）は、楽しんで全員参加のスキットを作りあげていくでしょう。

### P126 やってみよう3

このタスクは、日本語の力を試すだけでなく、いろいろなことを考えられると楽しいアクティビティーになります。これまでのタスクでも繰り返し指摘してきたように、答えは1つではないということを確認しましょう。

まず、生徒にいろいろな連想をさせる質問をステップ・バイ・ステップですること、このタスクをこなすための準備をします。例えば、A: 寝坊した時では、次のような質問が考えられます。

「寝坊したら、どんなことに困りますか」

「朝ご飯を食べる時間はありますか」

「バス（などの公共交通手段）の時間に間にあいますか」

「1時間目の授業は何時からですか」

### P128 やってみよう4

例えば、「おもしろい自転車」「へんな建物」というキーワードを入れてインターネットで検索すると、もっといろいろな種類の自転車の絵や写真を探すことができます。それらを利用して、話し合いをしてみましょう。

## 第8章 メディアとテクノロジー

---

### P141 やってみよう1

まず、クラスをいくつかの小さいグループに分け、それぞれのグループで問題を作らせます。その後、クイズ形式（早押しなど）のアクティビティーをします。

1. 出題するグループを選びます。
2. 選ばれたグループから問題を出して、ほかのグループがそれに答えます。
3. 出題したグループのメンバーが審査員となり、よい答えを出したグループに点数を与えます。

より多く点をとったグループが勝ち！ というアクティビティーです。点数のいちばん多いグループには、何か賞品を用意してもいいでしょう。

### P142 やってみよう2

このタスクを使って、基本的な文型などを練習した後、生徒自身が持っているハイテク製品やおもしろいものを次のクラスに持ってくるように宿題を出します。その実物を使って、どのようなことができるのかを「～たり、～たり」の文型を使って、説明させましょう。

### P144 やってみよう3

若者文化に限らず、ポップカルチャーまで広げて考えることもできます。現在、日本ではやっている音楽や映画などについて知ってもらいやすい機会です。クラスにアニメ好きの生徒がいたら、彼らの知識を利用しましょう。少人数のグループごとに、コンピューターを使ったスライド、短編映像、または音楽などからいくつか選ばせ、それぞれの感想を自由に表現できる機会を与えます。その後、話し合いの内容をまとめ、グループの代表が日本語で発表して、クラス全体の意見交換につなげましょう。

### P145 やってみよう4

この問題は、どのレベルの生徒にも難しい年月日の言い方の練習です。ここでは、西暦と元号の両方が使えるように、歴史

的なでき事が起こった日を使って、練習しましょう。この後のアクティビティーでは、まず、少人数のグループに分かれ、歴史上の大きなでき事の年表を作り、日本語で発表するなど、年月日の練習と同時に社会科の知識を活用します。各グループで年代や国を選ぶ際、ほかのグループと重ならないように注意すれば、クラス全体で社会科の知識を広げることにつながります。

## 第9章 将来

---

### P159 やってみよう1

まず、宿題としてこのタスクをさせる場合は、家族には英語で質問をして、クラスでその内容を発表する時は、日本語でするという形にします。できればその後、5CのCommunitiesのタスクとして、日本語で質問できる人を探しましょう。その場合は、日本語の質問もあらかじめ練習しておく必要があります。また、どうしても、そのような人たちに質問できない場合は、日本人で有名な人（例えば、マリナーズのイチロー選手、レッドソックスの松坂選手、オノ・ヨーコ、村上春樹、日本の総理大臣など）を何人か選び、教師か生徒がその人になりきって、質問に答えるというアクティビティーもおもしろいでしょう。

### P161 やってみよう2

実際にじゃんけんをして、「～てしまいました」の文型を使って失敗談を話すアクティビティーです。その準備として、「いつ、どこで、誰が、何を、どうして、どうなった」というように、わかりやすく話す練習をしておきます。それには、4コママンガや、新聞の日曜版などに載っているコミックの絵を使って練習しましょう。また、教師が自分の失敗談を披露するのもお忘れなく！

### P162 やってみよう3

絵にあるドラえもののひみつ道具を使えば、ほとんどの問題が解決できるので、このタスクの答えを考えるのはそんなに難しくありません。ただし、「食べ物を探すために、タケコプターで飛んで……」というように、複文が正しく使えるよう、しっかり文法を練習する必要があります。また、この後、少人数のグループで、ドラえもののひみつ道具以外で「無人島に持って行きたいもの5つ」を選んで発表するアクティビティーをしてみましょう。

### P163 やってみよう4

ここでは、日本の昔話などにふれるよい機会です。まず、このタスクをするためには、有名な日本の昔話を知っている必要があります。インターネット上で、「日本の昔話」という言葉で検索すると、授業で役に立つサイトをたくさん見つけることができます。それらを使って、お話のいくつかを読ませたり、あらすじを発表させたりしましょう。

また、物語をわかりやすく説明するために、「いつ、どこで、誰が、誰と、何をどうして、どうなったか」などのポイントを読みとる練習も必要です。そのためには、生徒の知っている物語を使って練習しましょう。

さらに、各昔話に共通する教訓や道徳は何か、ということについても話し合うと文化についてのより深い理解が得られるでしょう。

「昔話」で検索すると、様々なサイトが出てきます。また、下のサイト「絵本ナビ」ではメンバー登録すると「立ち読み」として本の1部分を読むことができます。

[<a href="http://www.ehonnavi.net/" target="\\_blank"></a>](http://www.ehonnavi.net/)

## 第10章 旅行

---

### P177 やってみよう1

ここでは、このタスクの後に、続けてできるアクティビティーを紹介します。まず、数人のグループに分かれ、同じか、よく似たトピックで話をします。そして、各グループで、話す役目と聞く役目にわかれます。話す役目のグループは聞く役目のグループに話の内容を伝えます。聞く役目のグループは、聞いた内容を教師に報告したり、報告書を作成したりします。報告された内容を確認して、話したことと合っているかどうかを確認します。この後、役目を交代して続けましょう。

### P179 やってみよう2

「歴史的建築物」または、「歴史的建造物」で検索すると、インターネットでいろいろな情報を見つけることができます。このタスクの例は、1文で答えていますが、それぞれの建築物（建造物）について、その特徴などを簡単に説明する文章を書き加えるようにします。日本の地理や歴史にふれる機会として利用してください。

### P180 やってみよう3

このタスクでは、「あげます／もらいます」文型の練習で終わらず、文化的な観点から話し合うことが大切です。お礼を受ける人の立場や、自分との関係によって、言い方の変化に注目して、日本文化を理解する機会にしましょう。

また、住んでいる地域や、祖父母の祖国ではどんな感謝の気持ちを表す習慣があるか、調べさせて発表するのもいいでしょう。

#### **P182 やってみよう4**

まず、ペアになり、それぞれの生徒に、A と B の両方の立場でスキットを作らせます。時間を決めて練習した後、2つのスキットのどちらか1つを選び、クラスの前で発表しましょう。これは、生徒同士お互いに評価する (Peer evaluation) よい機会です。どのスキットも内容が同じなので、どのペアのスキットがいちばんよいと思うか、なぜそう思うのか、どのペアのスキットのどの部分をどう工夫するとよいかなどを話し合うと、より上のレベルを目ざせます。